

# な調和がある。芸術品ともいわれる1本がいかに生まれるか? ホットな核心にせまる衝撃のボリューム。

# LS SERIES

無限の可能性を予感させる幅広い表現力と演奏性。  
随所に光るクラフツマンの経験。

### ●コピーモデルの常識をくつがえてしまったLS

まずボディから。1958年型レスポールのボディ材はメイプルトップとマホガニーバックのソリッドからできていた。他のコピーモデルのなかには座金が入ってたり(つまり空洞)メイプルとマホガニーの間に別の木材を入ったものもあるから気をつけろ。もちろんLSは安心だ。¥50,000のモデルが

「すべて」が「すべり」だしになっている。高域のレスポンスがよく小さな音量でも音がグーンとびびる。高音にレスポールのサウンドが再現されるけれど、外部から見えない「中どり」工程もすごい。長さはおおよそ38cmもあり、これをあける穴開機は丸んと2cm以上、ドリルは50cmもある。他ではちよとまねのびかない工作法だ。「コンピューター制御の3次元レーザー」の機械力と繊細な加工技術

をまクラフツマンの参加、仕上げは完璧だ。これこそ、本当のコンストラクションだと思わないか? おまけにすべりにはこのだけじゃない。ネックは全機種マホガニーピース。こんなに安いレスポールのモデルにはまずないというもいろいろ。(国産ではマホガニーピースを採用しているのはトカイだけだ。1958年型レスポールのスタンダードモデルも1ピースだ。)

●木工技術はハツゲンだ  
①完璧なフレッチング: フレットはホルドと同じ高2.7mm、高さ0.9mm。アブロン、フューキングもスルーだ。フレットエッジはオーバーハイフニング(LS-50、LS-60)とフレットエンディング(LS-80以上)の2種類がある。フレットはオールドタイプはフレットを削りだし、LS-80以上はオールドタイプはオールドタイプ



### ●ペグ

クルーソライアをさらにグレードアップしたトーカイクルーソライアペグが採用された。2条ネジでかつきもなく高精度。アラスチックのまみり色出しにも細心の注意がはらわれ、オールドのなともいえない、深い色がでてくる。とにかく最高のペグ「ハード」フィリングが味わえる。また単にクルーソライアというも表面にナットが「フレット」はペグがあるから注意してもらいたい。ナットが「フレット」ポストが高くなり弦の張りも弱くなる。こうなると音も微妙な変化をみせ、レスポールの特有の音がたのしみないわけだ。うっかり見落さないように。また、ロトマチックペグが採用された理由は、重く、弦振動をのみこんでしまうからだ。低音に至ってはアツという間に減衰してしまい、まったく音楽にもならない。ダイアンレスポールのにはちよとあめないのどは?

●ピックアップ  
ピックアップはボディとのコンビネーションにおいて、はじめに100%の力を発揮する。いいがげまボディにどんなに優れたPUをマウントしても完璧なサウンドは得られない。トータルバランスの中で「ほとんどの性能が生かされるわけだ」。

①LS-Aタイプ:  
1958年型レスポールの使用されていたものと同一コイル構造の「PAF」



# PB SERIES

各部の一体性と抜群のコンビネーション。  
タイトでヘヴィな音をくりだすハードパンチャーの力量。

### ●ボディ

PBシリーズの全てが単板けぞりなしボディだ。センタラー・リネンが機種によりふりかけられ、特にPB-80、PB-85Nは1ピースになっている。ボディ加工にはSTシリーズと同じようにコンピューター制御のNCルーターが使用された。NCルーターはネック、ピックガード/パネルの加工にも使用された。この結果、ボディ、ネック、ピックガード/パネルは完全に

着し、今までのボディの欠点とされてきた「弦2本の5〜6フレットくろしみ」の、音の不鮮明さを解消し、タイトなレスポンスサウンドを獲得した。(フレットのくろしみも関係があるがこれはネックの硬さを参考にしてもらいたい) 緻密なクラフツマンの神経はあらゆる部分にわたるとき、おまけにコンピューター制御のNCルーターは完璧な働きをする。こいつは、もう、どうもなしだ。

●ペグ  
3点どめフレットのPB-40、PB-48。オリジナルレスポンスの響きを伝える4点どめフレットのPB-60以上。その他も「トルク調整型最高級系」。微妙なチューニングも確実な抜群のデザインと使用感だ。

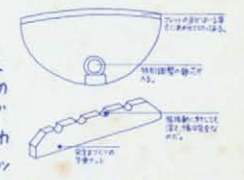
●ピックガード/パネル  
PBシリーズのピックガード/パネルにはコンピューターによる制御されたNCルーター加工が施され、ボディ、ネックとの一体性は完全だ。PB-80、PB-85Nにはアルミ製ヘアライン仕上げのピックガード/パネルがマウントされている。これが「1957年型」レスポンスの最大の特長だったわけだ。アルミのピックガード/パネルはそれ自体がシルドパネルでもあり、完全に外部のハム(雑音)をシールドしてくれる。ところが「フェンダー社は1957年、1年間のみ」製作を中止してしまっ。アルミはやはりいい特性をもっているにもかからず非常に高価で、欠点もあつたから。そこで「プロジェクター」はオリジナルタイプの「スレーキング」とアルミの特性を生かすため防錆処理加工することを提唱し、

### ●ネック

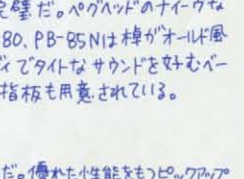
ネックは全機種、優れた剛性をもちメイプルピースだ。フレッチングには細心の注意がはらわれ、「フレット」はフレットの足が入る深さにあわせてになっている。こうすればフレットは引っ張り直さず、ハードなプレイにもビクともしない。プレイには「すき間」がないわけだから、音の伝達がよくメイプル材独特のシャープなサウンドが楽しめる。また弦の張りに耐え、ソリを防止する特別調整の金糸が「入り」対策

は万全。ネックシェイプも理想的で「フィンガーワーク」にスムーズだ。ナットには牛骨を採用し、仕上げには「たつぷり」時間がかかっている。完全手づくりだ。ブリッジ、ポールピースとの関係から極めて正確な「ナット」の位置が決定され、弦振動に対しても「深さ」が完璧だ。ペグヘッドのナイゲ丸味は風格があり、中でもPB-80、PB-85Nは「棒」オールド風に磨きこられている。なお、よりヘヴィでタイトなサウンドを好むプレイヤーのために全機種、ローズ指板も用意されている。

●ピックアップ  
ピックアップはボディの心臓部だ。優れた性能をもつピックアップがボディと最高のコンビネーションを構築するとき、レスポンスの表現力は無限となる。PBシリーズにはスプリット型ピックアップが採用され、PB-60以上にはPB-Aタイプ、PB-48にはPB-Bタイプ、PB-40にはPB-Cタイプがマウントされている。スプリット型は基本的にはシングルコイルだが、2組組みあわせることによって「ハムバッキング」効果をおける革命的なピックアップだ。ピックアップを固定している「マウント」はボディとの共振防止、真鍮のシルドプレートは、特殊のシルド効果を発揮する。A、B、C、3タイプとも、それぞれ特長を生かし、PB-Aタイプはオールドサウンドをクワイエットに開放されたコイルの線材もオールドと同じマテリアルが用いられている。深く、深い、あのオールドサウンドが「プレイ」できるわけだ。PB-



スプリット型PUの簡単な説明  
①コイルの巻数  
②コイルの巻き方向  
③コイルの接続方法



④コイルの接続方法  
⑤コイルの接続方法